

## 令和6年度第4回滝沢市上下水道事業経営審議会議事録

I 日 時 令和6年12月20日（金）14時20分～16時05分

II 場 所 滝沢市役所分庁舎 第6会議室

III 出席者 上下水道経営審議会委員 出席6名

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員】

山田一裕委員、山口孝委員、齋藤誠司委員、田村武委員、小池倫子委員、  
八重樫節夫委員

【滝沢市】

上下水道部長 及川竜悦

施設課 課長 長谷川唯倫、総括主査 林野和恵、副主任 高橋利昌

経営課 総括主査 高橋竜也、主任主査 田村幸子、

主査 須川裕子、主査 佐藤克也

○傍聴

【岩手県立大学】

総合政策学部教授 辻盛生

## IV 次 第

### 1 開会

### 2 議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に田村武委員及び八重樫節夫委員を指名した。

### 3 議事

#### （1）報告事項

冒頭、齋藤副会長より次のとおり説明があった。

【齋藤副会長】今回の報告事項については、前回私の方から発議をさせていただいたものである。この審議会は、上水道・下水道の経営状況がどうなっているのかということの話し合いがかなり重要な部分であるが、現時点で出される資料は前年度の資料であり、今年でいえば令和5年度の実績、次に令和7年度の予算ということで、肝心の令和6年度の部分が抜けているという状態がずっと続いてきた。

一昨年度に少し料金の見直しの話が出て、これから経営状況がどのように変わっていくのかを考えたときに、今の状況がどうなっているのかを先行して皆様にお示ししないと将来について推計するのが難しくなってくるのではないかとい

うことから、事務局と協議の上、上水道・下水道それぞれの令和6年度の間接決算的な数字を出してもらった。

これによって、昨年と比較して今年の経営状況はどうか、あるいはこれからどうなっていくそうなのかというのは、一回だけでは難しいと思うが、回を重ねるごとにデータとして残っていくかと思うので、こういった内容について今日は事務局から説明をお願いしたいと思う。

【高橋総括主査】齋藤委員から今ご説明があったとおり、齋藤委員といろいろとご相談させていただきながら、今回の資料を作成したものである。

以下のア、イ及びウの報告事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

ア 令和6年度滝沢市水道事業進捗状況について（水道資料1）

【齋藤副会長】いろいろな数字が並んでいるが、注目すべき数字はどこか。令和6年度損益計算書の1～4までであるが、経営状況は良くなっているのか、悪くなっているのか、それとも今までどおりの状況かというのをまずいちばん知りたいときに、どの部分を見れば良いのか。

【高橋総括主査】最終的な結果については、中段の営業損益の部分の数字である。これが、営業収益から営業費用を引いた額、どのくらいお金が入ってきてどのくらいお金が出ていったかという差し引きが示される。営業収益、営業費用というのは、水道事業の主たる営業活動によるものであるが、そのうち水道管を布設した等の費用は直接的にはここに入らず、2（6）の減価償却費ということで、後の年以降に間接的に入ってくるような形になる。このような収益と費用の差、というのが一つの結果にはなるので、こちらの数字を見ていただければと思う。

収益については、先ほど説明させていただいた給水収益がメインになるので、そちらの数字にも注目しながら営業損益を見ていただければよろしいかと思う。

昨年度と比べると令和6年度は7,000万ほど少なくなっているが、原水及び浄水費、配水及び給水費の部分で昨年度の決算値に比べると少し増えている部分があるので、その部分でというところもある。

【及川上下水道部長】今高橋総括からご説明したとおり、1営業収益と2営業費用というところが入ってくるお金と出ていくお金ということで、1（1）給水収益が水道料金の収入ということから、ここをまずは注視していただくと。2営業費用については、（1）から（8）とあるが、（4）から（7）については我々の企業努力云々に関わらず毎年かかっていく経費ということで、この部分については毎年度削減できるものではないというところで見えていただければ。（1）、（2）については、先程ご説明した浄水場に係る費用と給配水に係る費用ということで、この部分の費用が毎年度どのように推移していくかということによって経営状況に影響してくるというような形で見ていただくのがよろしいかと思う。

実際のところは（1）、（2）の費用の中身についても細かく分かれていて、

我々の企業努力で削減できる部分と、電気料等含め施設がある限りかかっていくものとがある。ここの部分については、今日は中身を説明する資料ではないが、今後（１）と（２）の中身に具体的にこういうものが含まれていて、こういう部分が削減していけるというような内容も段々に皆様にご説明していければと考えている。

【齋藤副会長】中々できる部分とできない部分とがあるというのはそのとおりだと思う。本当はいちばん最後の経常利益であったり純利益であったりというところが見たいところではあるが、ここは今のところでは出ないということで、そのとおりかなと思う。これからのこの様式の改善点として、昨年度の数字は出していただいて結構だが、出ない数字については無理に出さなくても良いかと。先ほどおっしゃったとおりこの中の重要な点については、特に何か印をつけて、昨年と比べて上なのか、横ばいなのかといった評価をつけていただけると、次年度につながっていくのかなと考えている。

【高橋総括主査】今回初めて作成してみたが、まだまだ改善の余地があると思うので、今後検討してより良いものを作らせていただければと思う。

【山田会長】ご指摘のとおり、数値の羅列だけ見ても判別がしにくいと思う。進捗状況であるから、途中経過ではあっても経営上大事な項目についての分析なり、判断できるものがあればぜひお示し願いたいと思う。

【八重樫委員】何か月か前に、岩手日報で、能登地震の教訓を受けて、各市町村の耐震化率を載せた新聞記事があった。滝沢市は０％となっていたが、この資料にある耐震化率との関係はどうなっているのか。病院や避難施設などをどうするかだと思うが、その辺りの関係についてお知らせ願いたい。

【長谷川課長】ご質問があったとおり、能登の地震を受けて国土交通省の方で重要な病院であったり、避難所であったり、防災拠点であったりというところに水道、下水道の管路が使えるかどうかというところで調査を行ったところではあるが、調査の内容としては、管の中で一か所でも耐震化されていない部分が含まれているとその部分は０となる、というものであった。滝沢でいうと、水源から浄水場、配水池、配水管、家の前や避難所の前へと行く中で一か所でも耐震化されていない部分があるとそれは「０」という評価になる。何千ｍというところを一度に全て更新しなければ０のままである。

滝沢にある避難所、病院等について全て延長ベース、管路の長さに対して耐震性を有する管の長さでみると大体６０％くらいは整備されていることになるが、一部でも耐震化されていない部分が含まれると０になるということもあり、その調査については０になっているというところである。

あとは、下水道と水道の関係で、例えば鶉飼は下水道が古いが水道は更新しているため、水道は耐震化がほぼ進んでいるものの、下水道が古いため調査上０になってしまう。一方東部では、水道は古く、下水道は今の基準にある程度合致しているということである程度耐震性は有するものの、水道の更新が入っていない。こういった組み合わせの関係も要因しているが、全体としては、水道も下水道も

60%程度は耐震化が進んでいるところであり、今後も継続して弱いところ、直しにくいところを重点的に更新していく予定である。

【山田会長】今のご指摘で大事なポイントとして、何も進んでいないのではないかと  
いう疑問や、ご心配をかけることに対して、広報についての工夫や改善できるこ  
とはないか。

0は統計上の数値なのでそれはそれとして、全然やっていないわけでもないし、  
詳しく聞けば部分的に進んでいるのだというご理解を、市民の方々にしてもらう  
ための情報の提供の仕方についてはどうか。

【長谷川課長】何もやっていないように見えてしまうのは私共も懸念しており、情報  
の発信についてはしていかなければならないと考えている。来月盛岡広域でも上  
下水道の耐震化の計画について揉もうとしているところなので、広報の仕方、取  
り組み状況の発信の仕方について意見交換をした上で、滝沢としても取り組んで  
いきたい。

【山田会長】補足の情報の仕方でも良いので、着実に取り組んでいるという発信は是  
非していただきたい。

【田村委員】資料の5ページに漏水の発見個所数と記載があるが、何か所という数字  
が載っていないのは何か理由があるのか。

【長谷川課長】進捗状況については、個所数の記載を忘れていた部分で申し訳ない。

【田村委員】例えば例年はこのくらいあったとか、今までこのくらいの目標があった  
というのは目安になると思うが。項目だけあっても、どのくらいの数があるもの  
なのかまで含めてお話をもらえればと思う。

【及川上下水道部長】後ほどどのくらいの件数があったのか、去年今年あたりのもの  
を情報提供させていただきたい。

【山田会長】先ほど齋藤委員からもご指摘があったが、中間報告の資料の作成あるい  
は内容について、工夫する点として受け止めていただければと思う。

#### イ 令和6年度滝沢市下水道事業進捗状況について（下水道資料1）

【山口委員】水道の給水収益もそうだが、3月の収益が落ちているというのは、どの  
ような要因があるのか。

【高橋総括主査】3月に他の市町村に異動する方が多いということが主な理由。3月  
にかけて出て行って、年度が明けてある程度入ってきて、年間を通じて少しずつ  
人が入ってくる。2月3月にかけて滝沢から出ていく人口が多いために、収益が  
下がっていると考えている。

【山田会長】その説明に準ずるようなものであれば、その月の人口統計値などがあれ  
ばわかりやすいと思う。

#### ウ 下水道使用料について（資料「下水道使用料について」）

【田村委員】不明水の問題について、水道使用量に準じて下水道使用料を決めるとい  
うときに、地下水を利用している人が下水道に放流しているということが不明水

の一部の要因になっているということはあるのか。

商売をしているところで、水をたくさん使っているところでも、下水が整備されているところに排水していれば、水道メーターは上がらなくても下水道をたくさん使っているということになるが、そのようなケースはないのか。

【高橋総括主査】自家水などと呼んでいるが、市の上水道を使っていない、井戸水などを使っているところに関してもメーターをつけていて、汲み上げている量をもとに下水道使用料を算定しているので、こちらの認識ではそのようなことはないと考えている。

【山田会長】よほど悪質なケースでない限り把握はされているという意味でよいのか。

【高橋総括主査】そのとおり。

【田村委員】一般の家庭でも、下水が整備されているところで井戸水を使っているところも結構数があるかと。

【及川上下水道部長】足洗いなどに井戸水を使っていて、本来は浸透させるべきところを公共下水道に流してしまう、実際にはそこに雨水も入ってしまうという。ご指摘のとおり、そういったことが不明水の一部にはなっていると思う。

そういった部分は、調査等を行ってできるだけ減らせるように、ということが必要だと考えている。

【田村委員】使用料が汚水処理原価を満たさず、差がついていくと大変なことになると感じ質問したものである。

【山田会長】今の質問に関連して、先ほどの下水道資料1に鶴飼西地区での不明水対策が記載されているが、そこが上手くクリアになれば令和6年度の見込みで前年比1/3ほど下がっている経費回収率が回復する見込みはあるのか。

【長谷川課長】対策で得られる効果と、対策を練るための事業費との関係もあり、なかなか数字としては表れにくい。ただ、長期的には取り組んでいかなければならないものであり、先程の耐震化とも合わせて、弱いところに取り組んでいくということが重要と考えている。

【山田会長】効果がどのようなものか関心があるので、ぜひ継続してモニタリングしていただいて、情報収集をお願いしたい。

【及川上下水道部長】令和6年度見込みの経費回収率について、96.54%ということで例年より大きく下がる数字となっているが、実際には9ページの汚水処理原価の計算の中の汚水処理費用については、今時点での予算見合いでの計算で、96.54%という数字が出ている。実際には、決算での汚水処理費用はこの予算まではかからないということが例年の傾向なので、経費回収率が96.54%まで悪化することはないであろうとは考えている。

## (2) 審議事項

ア 令和7年度滝沢市水道事業会計予算基本方針について（水道資料2）

【齋藤副会長】4ページの財政の健全化の部分にある収納率の目標について、なぜ99.98%なのか。残りの0.02%はどのような人達か。

【高橋総括主査】料金徴収業務については業務委託をしており、その中の仕様でも目標としている数値である。年間の水道料金収入が大体８～９億円くらいのうち、最終的な未納額は毎年数万円から１０万円くらいとなっている。この部分をどうするか、ということだが、かかる費用との兼ね合いもあるため、大体この範囲内に収めていければ、というところがこの９９．９８％という数字である。

【齋藤副会長】どのような方法で納付を逃れているのか。

【高橋総括主査】水道に関しては、強力な給水停止という方法があり、水道料金を払わなければ水を止めるというもののなので、基本的には給水停止がかかると料金を納めてもらえるが、未納のまま給水停止になるかならないかのところで転出してしまうと給水停止もできない。その後も督促・催告を出して応じてもらえる場合もあるが、そのまま納付がされない場合もあり、そういったものが残ってしまう。

【山田会長】ちなみに給水停止に至る通告までの期間というか、何日間分くらいまでがタダで水道が利用できてしまう期間になるのか。

【高橋総括主査】いちばん最初にその月の料金の請求があり、25日までに払わなければいけないものになるのだが、その１か月後までに払わない方には督促状が出る。それでも払わない人には翌月に給水停止ということで、最初の納付書が出てから大体２か月半くらい払っていないと給水停止となる。

【及川上下水道部長】３か月前のものを払えば使えてしまうということで、常に２か月分は払わない状態でも使える。

【山田会長】なかなかそういう人には使われないようにしなければならないなど。

【及川上下水道部長】公平性が失われるのでそのように思う。ただ、今取り組みは強化している。

【高橋総括主査】徴収業務を委託していることにより、以前に比べてきちんとしたスケジュールで行われていることによって、収納率が達成されているという部分がある。

【八重樫委員】先程下水道の料金見直しのロードマップを見させてもらったが、上水道のロードマップはいつの資料に載っているか。

【高橋総括主査】ロードマップという言葉では載っていないが、水道の方では「ビジョン」というものと、具体的な内容を定めた「中期経営計画」とがあり、「中期経営計画」の方にこの年までにこれをやる、という表のようなものを掲載しており、そちらの方に料金見直しについても記載しているような形となっている。

【及川上下水道部長】水道も下水道も基本的には４年ごとに見直し、見直しということでは必ずしも料金改定ではなく、適正な料金となっているかを検証していくということで考えている。ただ、その４年というのが一般的に適切かどうかというのは、もっと短期で常に検証していくべきとお話もあったので、皆様にご意見を伺いながら検討していきたいが、基本的には４年ごとということで考えているので、今時点では令和９年に検証というスケジュールとなっている。

【長谷川課長】令和９年に最終的な検討を行うというところだが、先程水道施設の更新計画を策定しているとお話ししたところで、令和７年、８年の業務の中で更新

費用をみて、一度財政のシミュレーションをかける。それを受けて、令和8年、9年をかけて料金見直しのシミュレーションをする予定となっている。中期経営計画では、令和9年に次期中期経営計画策定に向けて財政シミュレーションを行うことにはしているので、その中間で投資計画についてシミュレーションをしながら検討をしていく。中期経営計画のスパンごとに見直し、検討をしていく形となる。

【山田会長】質疑等ほかになれば（２）審議事項ア令和7年度滝沢市水道事業会計予算基本方針については了承としたいと思うがご異議ございませんか。

【委員一同】異議なし。

イ 令和7年度滝沢市下水道事業会計予算基本方針について（下水道資料2）

【齋藤副会長】両方の経営の考え方、料金の考え方について、昨年、一昨年にも少し話をしたが、将来推計というのはあくまで将来推計であって、根拠がない数字だと思う。なので、実際に私達が知り得るのは今年の予算決算、少なくとも来年。3年以上先になると正確な数字はなかなか出てこないということがある。経営戦略は経営戦略として、先程ご説明いただいた今年度の中間決算と来年度の見込みを主にして料金改定するかどうかを検討すると。この年に料金改定ありきの話だと、納得は多分させられないのではないかと。そういった方向で行くのがよろしいかということが一つある。

もう一つ、昨年、一昨年あたりに唐突に審議会に出して料金改定という課題を振られたのだが、料金改定をするときは、最初に議会に対して「料金改定を審議します」ということを公表した後に審議に入るとするのが適正なやり方だと思う。

推計を使うにしても、人口だけは人口推計を使うしかないが、あくまで実績値など現実的な数字をもって検討していただきたいと思う。決して料金改定に反対するものでもないし、不明水対策等にしてもこれからお金がかかるということにはわかっているので、積極的に取り組んでいただきたいとは思いますが、やり方を少し間違えただけでせつかくの良い計画が達成できなくなる場合があると思うので、その辺りを十分気を付けて検討してほしい。

【及川上下水道部長】齋藤委員ご指摘のとおり水道下水道ともにそうなのだが、下水道について、資料の1ページに下水道使用料の推移ということで、令和3～6年度の実績を記載させていただいているが、本来であればこの推移からきたときに令和7年度こういった下水道使用料が見込まれるというあたりまで分析した上で皆さんに提示できればよかったのだが、今回令和6年度の数字が横ばいになっているということもあったので、令和7年度の基本方針ではあるが、令和7年度の使用料の見込みを皆さんにご提示できなかった。その部分で若干説明が不足するということがあって、現在のところ、経営戦略の投資財政計画で推計している使用料の毎年度の見込み、これに対して5年度決算でどの程度乖離が出ているかというところを提示して、それであれば7年度使用料収入はどのくらいになるのかと、乖離の部分くらいを見込んだ使用料を見込むのが妥当ではと考えている、

ということをご説明するつもりであった。

来年度以降は、もう少しこのあたりを過去5年分くらいの実績値を見込んで、あわせて歳出、投資の方も5年分くらいの実績値と比較してこのくらいの投資が妥当であろう、ということでの使用料について翌年度の方針に向けて提示できればと考えている。

【齋藤副会長】経費回収率99%というのは指標値で、最終的にはお金の部分でプラスになるかマイナスになるかというのはやはりその時にならないとわからないし、もし経費回収率で料金改定をするのなら、赤字でなければ皆さんのご理解は得られない部分はあるかと思う。検証の方をきちんとしながら、料金の改定をするときはできるだけ早く手を付けてやるという方向でよろしく願いたい。

【山田会長】今物価上昇とか不確定要素が多くなかなか原材料費や人件費も上がっている中で、その都度の実態に応じた料金見直しについて、議論していく準備をしておかなければというのが共通の認識だと思うので、ぜひ4年に一度の見直しにこだわらず随時進めていただければと思っている。

あともう一つご指摘いただいたのは、議会への審議を始めるという手続きについては、大事なポイントだと思うのでぜひ抜かりのないように進めていただければと思う。

【小池委員】今回の下水道使用料の概要の資料を見て、料金見直しの都度料金が上がっているようだが、市民に知らせているのか、何で知らせているのかを聞きたい。今回の資料を見て上がっていることを知ったが、毎回検針の用紙は見るがあまり料金の基準は気にしていなかった。なので、そういったことを市民に知らせているのかを聞きたいなど。

【山田会長】料金改定というか、料金の内訳等について、今の広報の状況はどうか。

【高橋総括主査】使用者の方に対してはやはり水道の広報誌には掲載をしているし、ホームページにも掲載させていただいている。

【山田会長】ご質問の意図としては、料金ってどのように積算されてこの値段になっているのかということをご存じない方が多いのではないかと思う。改めて、年度初めでもいいので、こういう仕組みで皆さんに請求していますよという案内は何かの形でやっていただきたいと思う。

そのような理解をしたが、よろしいか。

【小池委員】はい。この審議会に参加して、ようやく理解できたし料金が上がっているということも知った。広報も字が多く、どこを見ていいかわからなかったもので、表紙などに大きく載せていただければ有難いと思う。

【山田会長】質疑等ほかになれば（2）審議事項イ令和7年度滝沢市下水道事業会計予算基本方針については了承としたいと思うがご異議ございませんか。

【委員一同】異議なし。

その他意見や要望について、以下のようなやり取りがあった。

【田村委員】今人口で何でも推計している形だが、水道は世帯数でメーターや基本料金を決めているかと思う。なので、世帯数として今まで4人5人住んでいた家で子供が出ていき2人になったときに、そのまま契約しているということもあると思う。水道の方ではそれで赤字になることは少ないと思うが、下水は人数で使う量が変わるかなと思いながら見ていたのだが。

世帯数と人口の比率などで分析したことがあるのかどうなのかお聞きしたい。

【高橋総括主査】人口と世帯数について、滝沢市でいうと、人口はどんどん減っているが、世帯数は微妙に少しずつ増えている。世帯数の増加という部分は、令和6年度の料金収入が下がり止まっている、という部分に関係してくるのではと分析はしている。

【田村委員】もし時間があれば次のときにでも教えてもらえればと思う。今日はもう最後なので。

【山田会長】前回検討がされた情報は、中期経営計画か何かのときにそういう分析の資料があるので、時にはそういった資料もあわせて、要するにどういった人がお住まいになっているのかという想像ができるので、ぜひ情報提供をお願いしたい。

#### 4 その他

事務局より今後のスケジュール等についての連絡があった。

#### 5 閉会

この議事録は書記の記載したものであるがその内容が正確であることを証するためにここに署名する。

令和 7 年 4 月 22 日

滝沢市上下水道事業経営審議会

会 長

山 田 一 裕



署名委員

田 村 武



署名委員

八重樫 節夫

